

# 今後の検討スケジュールについて(部会2)

部会2(BLCJ)	不2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の実施内容 (概要)	1. BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の確立に向けた検討 2. 仕様情報との連携の検討 3. 建築確認に必要な属性標準の検討 4. コード分類の活用する仕組みの検討 5. 標準・オブジェクトを実務での利用を支援するための技術的方策の検討	1. 建築設計分野における標準ver2.0の検討 2. 設備設計分野における標準ver2.0の検討 3. 仕様情報等の連携の検討・整理 4. 建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討	1. 建築設計分野・設備設計分野における標準ver2.0の試行検証と確立 2. 仕様情報等の連携の拡大 3. 標準ver2.0に基づくオブジェクトの供給に関する関係者との役割分担の協議・整理 4. 他と連携下ポータルライブラリサイトの整備 5. 普及活動の実施・新組織での業務整理	1. 成果を整理 2. 新組織への業務移行
実施内容 (詳細)	1,3. 関連 ・共有パラメータの活用のための検討用サンプルモデルの作成と実用性の検討 ・各ステージの標準属性項目の整理 ・構造に係る属性情報の整理 2,4. 関連 ・仕様情報との連携の検討、特記仕様書・施工管理要領との連携の検討等 5. 関連 ・技術開発動向を踏まえたBIMオブジェクトの多様な配信方法等の検討 ・BIMライブラリのあり方の検討	1.2. 関連 ・標準ver2.0の対象範囲の設定 ・建築・設備設計分野の標準ver2.0の検討 ・サンプル建物での検証 ・多様な建築BIMソフトウェアでの標準ver2.0の実装に向けた検討 ・構造に係る属性情報の整理 3. 関連 ・公共建築工事標準仕様書のデータベース化と検討 ・建具表、仕上げ表等を介したデータ連携 ・特記と材料・機器選定パターンの整理 ・維持管理・FMの標準化に向けた情報収集・整理 4. 関連 ・標準ver2.0を基礎としたオブジェクトの供給検討 ・公益的視点からのビジネスモデルの検討・整理 ・他と連携したポータルライブラリサイトの検討	1. 関連 ・組合員等による試行検証と標準ver2.0確立 2. 関連 ・公共建築工事標準仕様書(R4版)のデジタル化と連携整備 ・建築確認関連オブジェクトの試行検証等 3. 関連 ・BIMベンダー、BIMライブラリサイト運用者、メーカー等との役割分担の協議・整理 4. 関連 ・ポータルサイトとメーカーサイト等を連携するINDEXファイル、API方式等の検討・整理 5. 関連 普及方法、普及コンテンツの検討・整理	今後検討
成果・目標  (2020・2021は実績、2022以降は目標)	[成果] ・BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の定義、標準の検討・仕様情報との連携、建築確認との連携、コード分類との連携・活用の検討 ・標準化、ライブラリの形態なども含めた将来像とロードマップの作成	成果1: BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の整理 成果2: デジタル標準仕様書・建築確認との連携 成果3: 標準化、共通のID・仕様書ID設定の効果・メリットが明確化 成果4: 標準ver2.0の普及に向けた方策の検討・整理	目標1: 標準ver2.0の試行検証、確立 目標2: デジタル標準仕様書等との連携 目標3: 共通のID・仕様書IDの活用拡大 目標4: 標準ver2.0の普及に向けた関係者との協力、分担の明確化 目標5: ポータルライブラリサイトの整備 目標6: 標準ver2.0の普及	目標1: 標準の実装 目標2: 共通のID・仕様書ID等による属性情報の様々な段階での試行活用 目標3: ポータルライブラリサイトの試行

# 今後の検討スケジュールについて(部会3)

部会 3	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度) (予定)	2023年度 (R5年度)
各年度の 実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建築確認の事前相談で利用するBIMビューソフトウェア仕様の検討</li> <li>○BIMソフトウェアにおいて確認図面の表現標準を作成するために必要な入出力情報を定めるために作成した解説書のフォローアップ</li> <li>○戸建住宅等におけるBIMを活用した確認申請の仕組みの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建築確認の事前相談で利用するBIMビューソフトウェア仕様の検討</li> <li>○過年度成果の技術整理</li> <li>○戸建住宅等におけるBIMを活用した建築確認図書の表現方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建築確認の事前相談で利用するBIMビューソフトウェア仕様の検討</li> <li>○検討成果の普及</li> <li>○戸建住宅等におけるBIMを活用した審査手法の検討</li> </ul>	(未定)
実施内容 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○審査者向けBIMモデル操作講習</li> <li>○建築確認の事前審査に適したモデルビューの検討、ビューソフトウェアの仕様検討</li> <li>○戸建住宅における「審査内容の項目リスト」、「凡例素案」、「確認図面の表現標準案」の検討(単体規定・集団規定共)等</li> <li>○検討成果の普及(成果説明会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確認審査に必要なBIM属性情報の整理</li> <li>○ビューソフトウェア仕様(案)に基づくBIMビューアプロトタイプ(建築研究所提供)による検証</li> <li>○過年度成果の技術整理(作図方法、BIMと図書を用いた審査方法ほか)</li> <li>○戸建住宅(4号建築物)を対象とした、主要4ソフトによる確認申請図書作成と審査者による検証</li> <li>○検討成果の普及(成果説明会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビューソフトウェア仕様(案)に基づくBIMビューアプロトタイプ(建築研究所提供)による深堀検証</li> <li>○検討成果の普及(成果説明会・審査者向け操作講習の支援)</li> <li>○戸建住宅等の審査に適したBIMビューソフトウェア仕様の検討</li> </ul>	(未定)
成果・目標  (2020・2021 は実績、2022以 降は目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○BIMモデル操作講習による、審査者の理解度向上</li> <li>○建築確認の事前相談で利用するBIMビューソフトウェア仕様(案)</li> <li>○戸建住宅におけるサンプルモデルと確認図面の表現標準(案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○BLCJパラメータリストを基に、意匠・構造・設備の分野別、部位別に、確認審査に必要な情報を整理(部会2と情報共有予定)</li> <li>○BIMビューアプロトタイプによる検証結果と課題整理</li> <li>○過年度成果の技術整理結果(作図方法、BIMと図書を用いた審査方法ほか)</li> <li>○主要4ソフトによる戸建住宅(4号建築物)のサンプルモデル、確認申請図書、作図方法の解説書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建築確認の事前相談で利用するBIMビューソフトウェア仕様(案)改訂</li> <li>○国土交通省建築BIM推進会議及び各部会との連携した取組み、BIM活用に係る課題検討等</li> <li>○戸建住宅等の審査に適したBIMビューソフトウェア仕様の検討</li> </ul>	(未定)

# 今後の検討スケジュールについて(部会4)

部会 4	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の実施内容 (概要)	国外における分類体系の翻訳と内容の整理、国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う	仕様書作成ソフトウェアやそれに代替する分類体系入力支援ソフトウェアなどの検討を行う
実施内容 (詳細)	分類体系の翻訳と内容の整理を行い、業務と照らし合わせた上での問題点等を整理した Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめ、モデル事業(過去の実案件)に適用し、課題の抽出と体系の見直しを行った	国際的協調のための建築分類コード体系の翻訳と改訂更新対応 建築分類コード体系の対応表作成とコスト概算手法の整理 設備分野における既存の分類体系の事例収集と建築分類コード体系を用いたコスト概算手法の整理 分類体系を利用した概算手法の活用資料の試作	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開 より具体的なLOCやコストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理 Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成	BIMオブジェクトとDOI、GUIDとの紐付けや、IFCやCDEなどデータ環境との相互リンク思想、CI-NET分類、修繕計画用BELCA分類やIDEAライフサイクルアセスメント分類など社会基礎情報としての活用を検討する
成果・目標  (2020・2021は実績、 2022以降は目標)	Uniclass2015をベースとした分類体系標準案の策定を行い、モデル事業を設定して分類体系の調査と検討を行った 日本でUniclass2015を活用するための助言や支援を目的とした協定を、英国NBSと積算協会で締結し、分類体系利用方法の提案を行った 分類体系 Uniclass2015 日本語訳を公開し、パブリックコメントを実施 (R2年12月～R3年1月) して、部会4の活動内容周知を図るとともに、Uniclass2015日本語版の翻訳精度向上を行った	S2 および S3 段階において、国際的な分類体系を日本の既存の分類体系に対応した形で活用し、BIMデータを用いた建築コストの概算手法を確立するための分類体系の対応表を作成し、コスト概算手法の技術的仕様の検討を行った。併せて、設備分野の専門的知識を持つ者が、建築物のBIMデータ等を活用することにより設備分野のコスト概算が把握できる手法を確立するための事例を収集・整理し、建築分類コード体系を利用したコスト概算手法の整理を行った。	他部会と連携し、建築のみならず土木やインフラ分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図るとともに、Uniclass2015の日本語訳を含めたその内容の精度を継続的に高めていく。	分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるよう、部会4で抽出された課題等を業界内の関係機関と共有しながら、より実践的な検証を重ねて、BIMの普及につなげていく。

# 今後の検討スケジュールについて(部会5)

部会5	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の 実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・工種別必要情報整理(建具SD・ELV)</li> <li>・データ連携仕様の策定(中間FF)</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の調査</li> <li>・エビデンスデータ(ストックデータ)の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・工種拡大(鉄骨階段・建具(AW・SS)他)</li> <li>・データ連携仕様検討(中間FF・IF・DB)</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験</li> <li>・データ真正性の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・工種拡大(木・躯体・機械設備 他)</li> <li>・これまでの工種の実証実験(データ連携)</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験 継続</li> <li>・オブジェクト紐づけの分類・コードの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・実証実験結果をふまえ、各部会策定仕様の実装検討(部会間連携)</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験 継続</li> <li>・各部会策定分類・コードの検討(連携)</li> </ul>
実施内容 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・工種別に専門工事業者が必要とする情報を整理(建具(SD)・ELV)、スペックシートの作成</li> <li>・データ連携手法として中間ファイル仕様を策定</li> <li>○CDE</li> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・エビデンスデータ(ストックデータ)の分析</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・必要情報整理の工種拡大(鉄骨階段・建具(AW・SS)・Pca・UB・WC)</li> <li>・データ連携手法の中間ファイル仕様・インターフェース案・DB案を試行</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境のプロトタイプ検討・実証実験実施</li> <li>・データ真正性の検証・実証実験実施</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・必要情報整理の工種拡大(木・躯体・機械設備 他)</li> <li>・今年度までの取組工種の実証実験など、実運用に向けた検討</li> <li>○CDE</li> <li>・機能追加など実証実験の検証継続</li> <li>・IFCオブジェクトと外部DBやドキュメントを紐づけするために必要な分類・コードの検討</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門工事業者データ連携</li> <li>・必要情報整理の工種拡大(仕上工事 他)</li> <li>・取組工種の実証実験をふまえ実運用に向けた各部会策定の仕様の実装検討</li> <li>○CDE</li> <li>・機能追加など実証実験の検証継続</li> <li>・IFCオブジェクトと外部DBやドキュメントを紐づけするために必要な分類・コードの検討</li> <li>・各部会との連携検討</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>
成果・目標  (2020・2021は実績、 2022以降は目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携</li> <li>・スペックシート(仮称)の作成(建具(SD・AW)・ELV))</li> <li>・工種別データ連携仕様書(中間ファイルフォーマット)(案)の策定</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の調査まとめ</li> <li>・プロセスにおける共有データの検討</li> <li>・竣工データのIDM(案)作成</li> <li>・IFCの実装準備</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携</li> <li>・スペックシートの作成(鉄骨階段・建具(AW・SS))</li> <li>・データ連携仕様の検討と試行(中間FF・IF・DB)</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験まとめ</li> <li>・データ真正性の検証まとめ</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携</li> <li>・スペックシートの作成(木・躯体・機械設備 他)</li> <li>・データ連携仕様の検討と試行(中間FF・IF・DB)</li> <li>・実証実験まとめ</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験まとめ</li> <li>・データ真正性の検証まとめ</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携</li> <li>・スペックシートの作成(仕上工事 他)</li> <li>・データ連携仕様の検討と試行(中間FF・IF・DB)</li> <li>・実証実験まとめ</li> <li>○CDE</li> <li>・情報共有環境の実証実験まとめ</li> <li>・データ真正性の検証まとめ</li> <li>・各部会との連携検討まとめ</li> <li>○国際標準・基準への理解促進</li> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と日本での展開方策検討</li> </ul>